

第69次 那覇支部教育研究集会 学校保健分科会

心と身体をどう守る ～紡ごう和と絆～

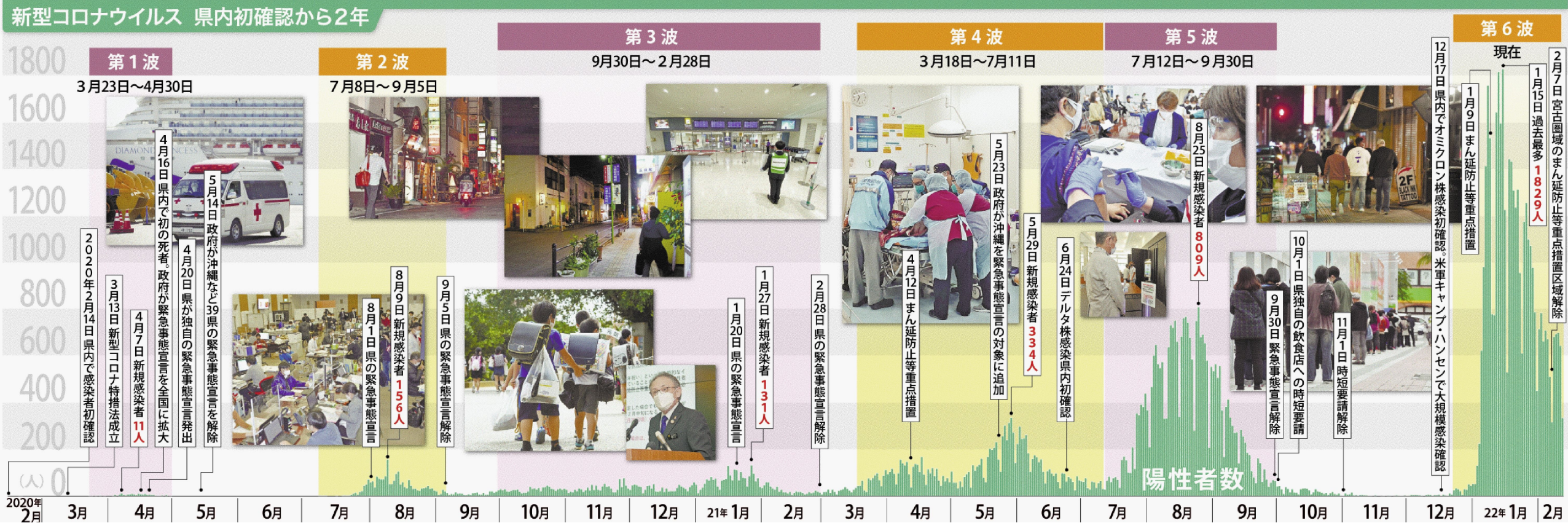
那覇市教育委員

仲本 千佳子

(名護療育医療センター 診療課長)

2022年9月24日

コロナ 2年の振り返り



コロナ 2 年の振り返り

全数把握見直し

5 歳以上へのワクチン接種が努力義務へ

(感染者5600人越え)

オミクロン B A ・ 5 の感染の広がり

(マスク着用推奨場面について基本方針変更)

5 歳以上へのワクチン接種開始

県内一部地域休校

オミクロン株による子どもへの感染の広がり

まん延防止等重点措置

'22
1 ~ 2 月

第 6 波

12 歳以上へのワクチン接種開始

県内一部地域休校

デルタ株による子どもへの感染の広がり

8 月

第 5 波

県内一部地域休校

沖縄県緊急事態宣言

5 月

まん延防止等重点措置

第 4 波

沖縄県の緊急事態宣言

'21
1 ~ 2 月 3 ~ 4 月

県内一部地域休校

沖縄県の緊急事態宣言

第 3 波

新しい生活様式

全国一斉休校

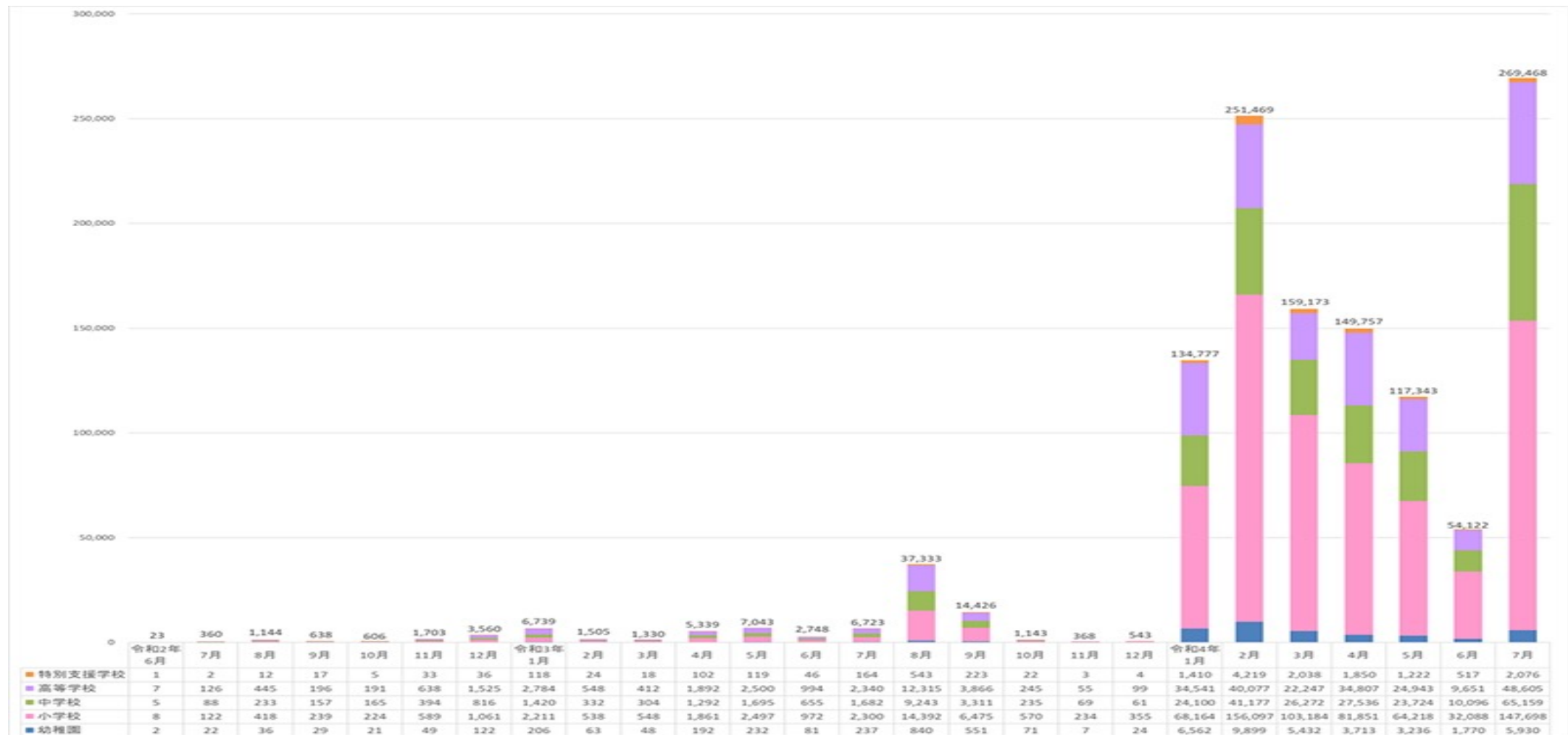
全国緊急事態宣言

'20 年
3 月 4 ~ 5 月

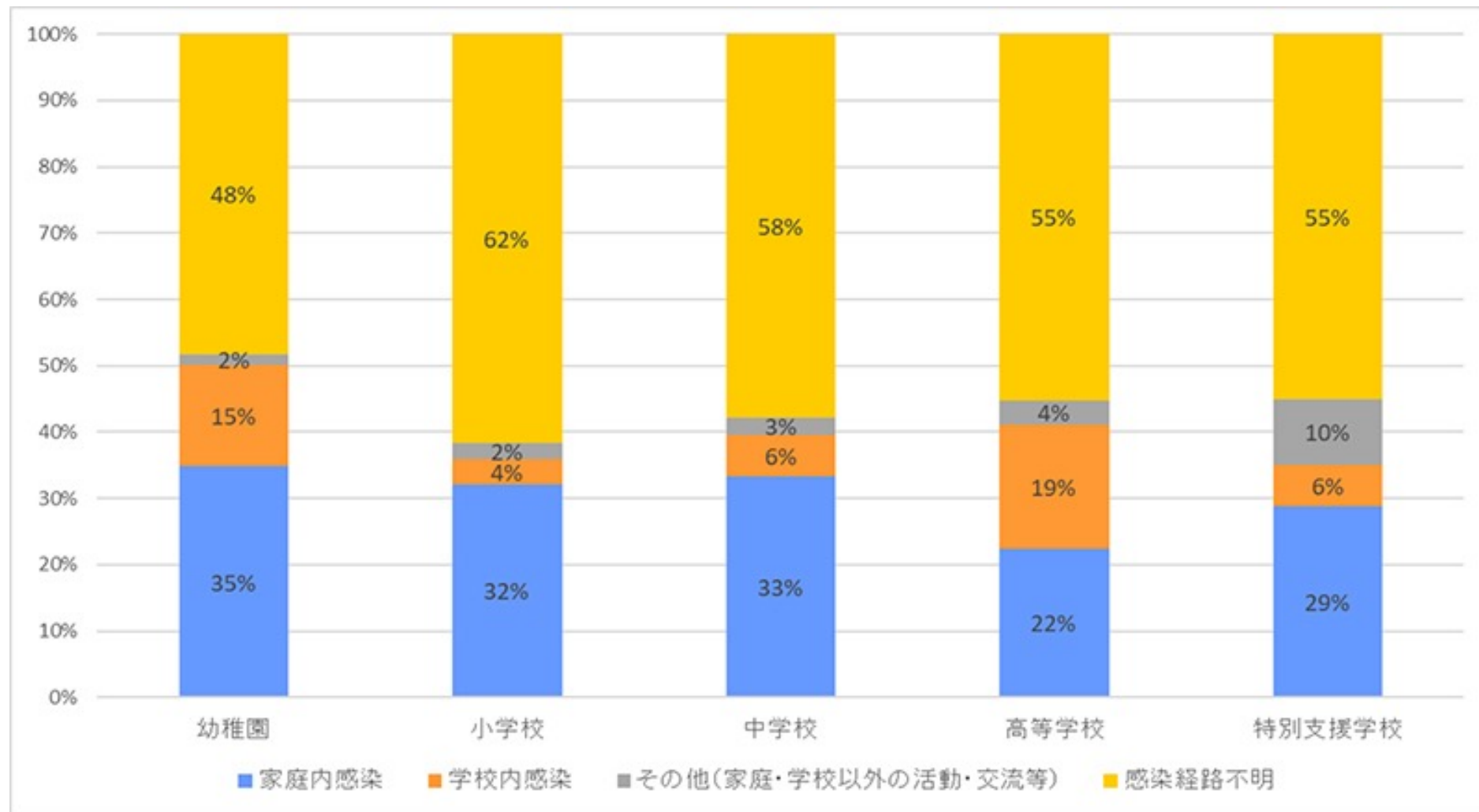
第 1 波

全国一斉休校

オミクロン株の影響



オミクロン株の影響



子ども達への影響 ① 教育

- ・ 休校を繰り返した事による学力の問題
特に沖縄は他地域より休校期間が長かった
塾に行く子と行けない子の格差
- ・ 生活リズムの乱れによる学習意欲の低下（ネット依存）
運動機会の減少による体力の低下も危惧
- ・ 遠足、修学旅行、合唱コンクール、部活などの特別活動が制限され、体験する場が減少

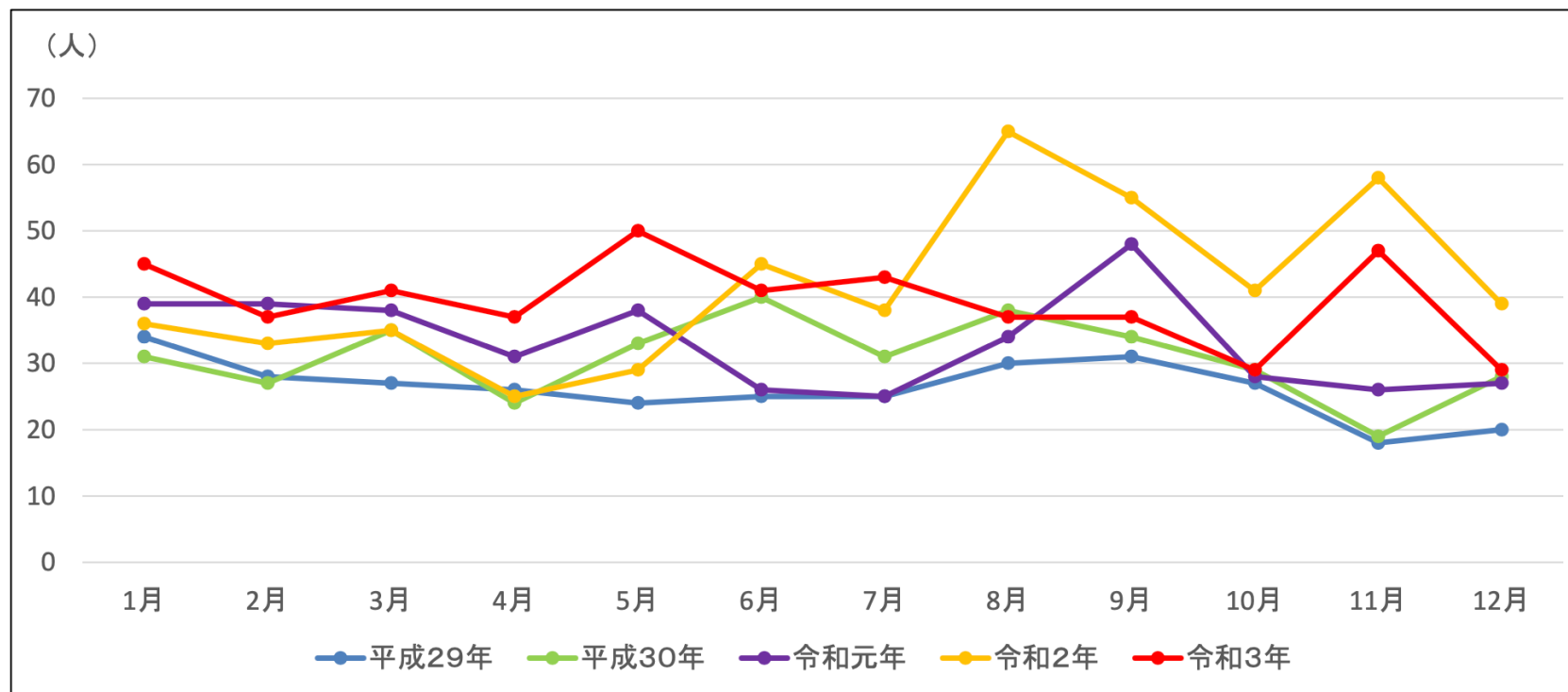
子ども達への影響 ② 情緒

- ・ 感染への不安（自身や家族の健康リスク、他者へ感染させるリスク
感染者への偏見）
- ・ 友達との会話や友達作りの機会が減少
（LINEやネットゲームで友達と交流）
- ・ 教育や療育、福祉からの支援が届きづらくなった
- ・ マスクによって表情が読み取りづらく、特に幼い子のコミュニケーション能力の育ちに影響が懸念される

子ども達への影響 ③ 家庭環境

- ・ 家庭内でのストレスが増加
虐待、DVのリスクが増加 発見の遅れ
- ・ 貧困格差の増大？
家庭内経済状況の激変
休校による給食の機会の減少
- ・ 医療機関への受診控え
育児不安の早期発見の遅れ

児童生徒の月別自殺者数[推移]①

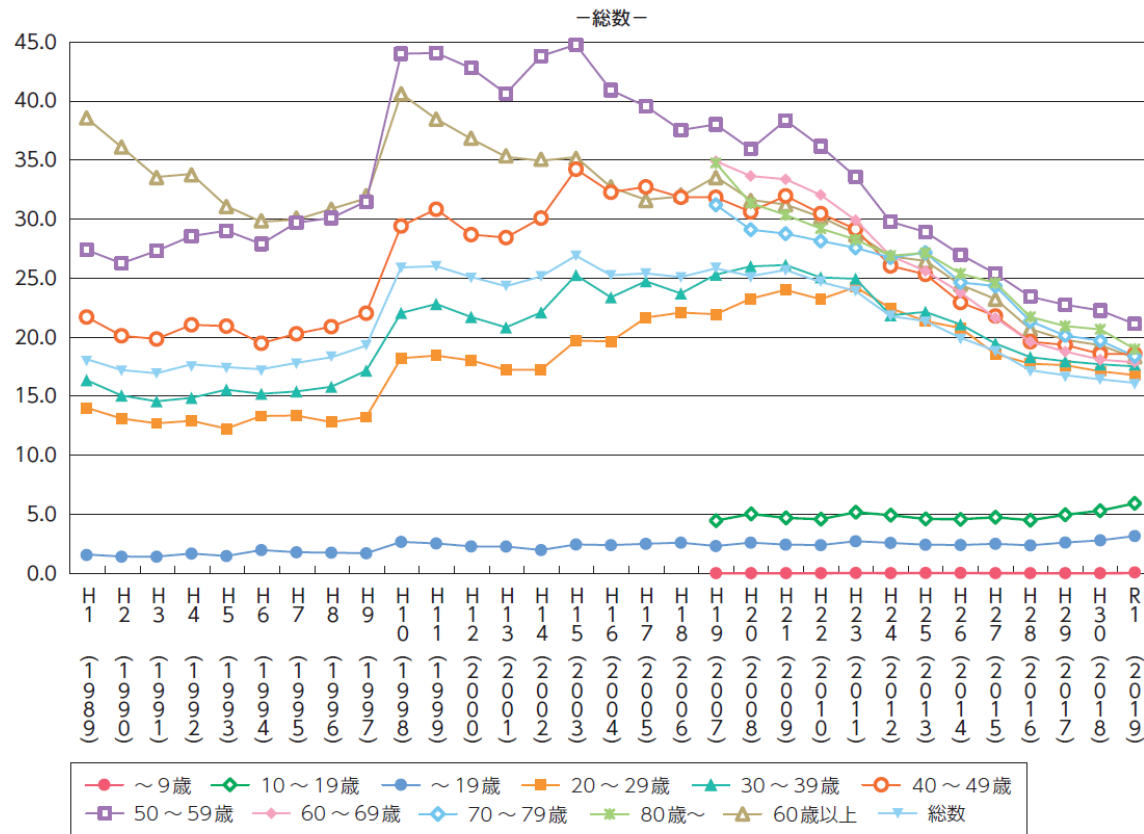


(人)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成29年	34	28	27	26	24	25	25	30	31	27	18	20	315
平成30年	31	27	35	24	33	40	31	38	34	29	19	28	369
令和元年	39	39	38	31	38	26	25	34	48	28	26	27	399
令和2年	36	33	35	25	29	45	38	65	55	41	58	39	499
令和3年	45	37	41	37	50	41	43	37	37	29	47	29	473

(出典)「自殺の統計:地域における自殺の基礎資料」(暫定値)及び「自殺の統計:各年の状況」(確定値)を基に作成。

子どもの自殺

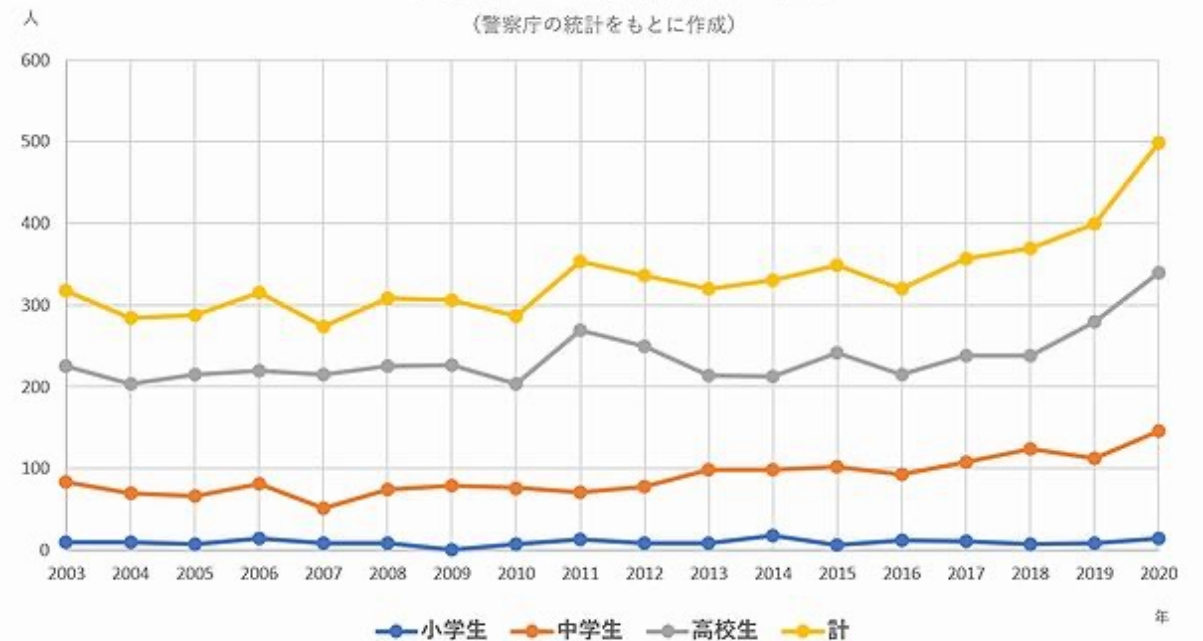


注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」に細分化された。

資料：警察庁「自殺統計」、総務省「人口推計」(国勢調査実施年は国勢調査人口による)より厚生労働省自殺対策推進室作成

小中高校生の自殺者数の推移

(警察庁の統計をもとに作成)



総 数

年齢階級	第 1 位				第 2 位				第 3 位			
	死 因	死亡数	死亡率	割合(%)	死 因	死亡数	死亡率	割合(%)	死 因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物	114	2.1	24.6	自 殺	99	1.9	21.4	不慮の事故	65	1.2	14.0
15～19歳	自 殺	503	8.7	44.0	不慮の事故	239	4.1	20.9	悪性新生物	111	1.9	9.7
20～24歳	自 殺	1,045	17.5	52.1	不慮の事故	314	5.3	15.7	悪性新生物	160	2.7	8.0
25～29歳	自 殺	1,059	18.0	47.8	不慮の事故	257	4.4	11.6	悪性新生物	240	4.1	10.8
30～34歳	自 殺	1,235	18.5	39.7	悪性新生物	533	8.0	17.1	不慮の事故	304	4.5	9.8
35～39歳	自 殺	1,288	17.2	27.9	悪性新生物	1,086	14.5	23.6	心 疾 患	420	5.6	9.1
40～44歳	悪性新生物	2,517	28.2	30.2	自 殺	1,574	17.6	18.9	心 疾 患	911	10.2	10.9
45～49歳	悪性新生物	4,698	49.4	33.6	自 殺	1,816	19.1	13.0	心 疾 患	1,719	18.1	12.3
50～54歳	悪性新生物	7,383	89.7	37.9	心 疾 患	2,436	29.6	12.5	自 殺	1,854	22.5	9.5
55～59歳	悪性新生物	11,693	154.8	42.7	心 疾 患	3,348	44.3	12.2	脳血管疾患	2,008	26.6	7.3
60～64歳	悪性新生物	20,146	267.8	46.5	心 疾 患	5,328	70.8	12.3	脳血管疾患	2,958	39.3	6.8

男

年齢階級	第 1 位					第 2 位					第 3 位				
	死 因	死亡数	死亡率	割合(%)	死 因	死亡数	死亡率	割合(%)	死 因	死亡数	死亡率	割合(%)			
10～14歳	自 殺	66	2.4	24.8	悪性新生物	59	2.2	22.2	不慮の事故	34	1.2	12.8			
15～19歳	自 殺	307	10.3	41.1	不慮の事故	183	6.1	24.5	悪性新生物	76	2.6	10.2			
20～24歳	自 殺	742	24.2	52.8	不慮の事故	254	8.3	18.1	悪性新生物	101	3.3	7.2			
25～29歳	自 殺	761	25.3	50.1	不慮の事故	191	6.3	12.6	悪性新生物	130	4.3	8.6			
30～34歳	自 殺	920	27.0	44.6	不慮の事故	239	7.0	11.6	悪性新生物	224	6.6	10.8			
35～39歳	自 殺	966	25.4	32.7	悪性新生物	430	11.3	14.6	心 疾 患	322	8.5	10.9			
40～44歳	自 殺	1,132	24.9	21.6	悪性新生物	1,003	22.1	19.1	心 疾 患	717	15.8	13.7			
45～49歳	悪性新生物	2,052	42.6	23.4	心 疾 患	1,340	27.8	15.3	自 殺	1,295	26.9	14.8			
50～54歳	悪性新生物	3,534	85.1	28.1	心 疾 患	1,942	46.8	15.4	自 殺	1,319	31.8	10.5			
55～59歳	悪性新生物	6,430	170.1	35.1	心 疾 患	2,724	72.1	14.9	脳血管疾患	1,401	37.1	7.7			
60～64歳	悪性新生物	12,666	341.0	42.2	心 疾 患	4,194	112.9	14.0	脳血管疾患	2,062	55.5	6.9			

女

	第 1 位					第 2 位					第 3 位				
年齢階級	死 因	死亡数	死亡率	割合(%)	死 因	死亡数	死亡率	割合(%)	死 因	死亡数	死亡率	割合(%)			
10～14歳	悪性新生物	55	2.1	27.9	自 殺	33	1.3	16.8	不慮の事故	31	1.2	15.7			
15～19歳	自 殺	196	6.9	49.5	不慮の事故	56	2.0	14.1	悪性新生物	35	1.2	8.8			
20～24歳	自 殺	303	10.4	50.5	不慮の事故	60	2.1	10.0	悪性新生物	59	2.0	9.8			
25～29歳	自 殺	298	10.3	42.7	悪性新生物	110	3.8	15.8	不慮の事故	66	2.3	9.5			
30～34歳	自 殺	315	9.6	30.0	悪性新生物	309	9.4	29.5	不慮の事故	65	2.0	6.2			
35～39歳	悪性新生物	656	17.8	39.6	自 殺	322	8.8	19.5	脳血管疾患	102	2.8	6.2			
40～44歳	悪性新生物	1,514	34.5	48.9	自 殺	442	10.1	14.3	脳血管疾患	209	4.8	6.8			
45～49歳	悪性新生物	2,646	56.5	50.5	自 殺	521	11.1	9.9	脳血管疾患	433	9.2	8.3			
50～54歳	悪性新生物	3,849	94.4	55.7	自 殺	535	13.1	7.7	脳血管疾患	509	12.5	7.4			
55～59歳	悪性新生物	5,263	139.4	58.0	心 疾 患	624	16.5	6.9	脳血管疾患	607	16.1	6.7			
60～64歳	悪性新生物	7,480	196.5	56.1	心 疾 患	1,134	29.8	8.5	脳血管疾患	896	23.5	6.7			

注) 構成割合は、それぞれの年齢階級別死亡数を100とした場合の割合である。

資料：厚生労働省「人口動態統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

子どもへの影響 ④ 新しい変化

- ・ 学校教育にオンライン教育が一気に進められている
今後不登校の子ども達への適応が期待される
学習障害のお子さん達への多様な教育的アプローチが期待
- ・ 家庭内での会話が増えたというデータ
- ・ 学校という場が持つ、子ども達の育ちへの影響力を再認識
- ・ 国民の衛生への知識・技術が向上

全員が当事者として出来る事を考え続ける

- 人と人が繋がりにくくなる環境下で、困難さを抱える子ども、家庭が見えづらくなっている
- 状況は常に変化し続けている
- 答えのない課題に、右往左往しながらも主体的に積極的に取り組む大人の姿を子ども達に見せることが、何よりも教育なのではないか
- 子ども達のストレス回避行動への共感による安心感と、意欲を回復させる日常の中の楽しみ、挑戦する目標設定を
- 子ども自身も問題解決に取り組む主体的な存在として、意見を延べ、参加できる機会を

まきていならんどう。まじゅん ちばらなや～さい

屋外・屋内でのマスク着用について

- マスク着用は従来同様、基本的な感染防止対策として重要です。
一人ひとりの行動が、大切な人と私たちの日常を守ることに繋がります。
- 屋外では、人との距離（2m以上を目安）が確保できる場合や、距離が確保できなくても、会話をほとんど行わない場合は、**マスクを着用する必要はありません。**
- 屋内では、人との距離（2m以上を目安）が確保でき、かつ会話をほとんど行わない場合は、**マスクを着用する必要はありません。**

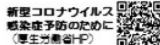
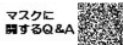


	距離が確保できる	距離が確保できない
会話を する	マスク必要なし 	マスク着用推奨
会話を ほとんど 行わない	マスク必要なし 	マスク必要なし
	公園での散歩やランニング、サイクリングなど	徒歩や自転車での通勤など、屋外で人とすれ違う場面

	距離が確保できる	距離が確保できない
会話を する	マスク着用推奨 	マスク着用推奨
会話を ほとんど 行わない	マスク必要なし 	マスク着用推奨
	距離を確保して行う 図書館での読書、芸術鑑賞	通勤ラッシュ時や人混みの中 ではマスクを着用しましょう

高齢の方と会う時や病院に行く時は、マスクを着用しましょう。
体調不良時の出勤・登校・移動はお控えください。

夏場は、熱中症防止の観点から、屋外でマスクの必要のない場面では、マスクを外すことを推奨します。



子どものマスク着用について

人との距離（2m以上を目安）が確保できる場合
においては、マスクを着用する必要はありません。
また、就学前のお子さんについては、
マスク着用を一律には求めています。



就学児について （小学校から高校段階）

マスク着用の必要がない場面

屋外

- ・人との距離が確保できる場合
- ・人との距離が確保できなくても、会話をほとんど行わないような場合
＜例＞離れて行う運動や移動、
鬼ごっこなど密にならない外遊び
＜例＞屋外で行う教育活動（自然観察・写実活動等）

屋内

- ・人との距離が確保でき、会話をほとんど行わないような場合
＜例＞個人で行う読書や調べたり考えたりする学習

学校生活

屋外の運動場に限らず、プールや屋内の体育館等を含め、体育の授業や運動部活動、登下校の際
※運動部活動において接触を伴う活動を行う場合には、各競技団体が作成するガイドライン等を確認しましょう
※活動中以外の練習場所や更衣室等、食事や集団での移動を行う場合は、状況に応じて、マスク着用を含めた感染対策を徹底しましょう

高齢の方と会う時や病院に行く時は、マスクを着用しましょう。

保育所・認定こども園・幼稚園等の 就学前児について

2歳未満

マスクの着用は推奨しません。

2歳以上の就学前の子ども

他者との距離にかかわらず、マスク着用を一律には求めています。マスクを着用する場合は、保護者や周りの大人が子どもの体調に十分注意した上で着用しましょう。



- ▶ 夏場は、熱中症防止の観点から、マスクが必要ない場面では、マスクを外すことを推奨します。
- ▶ マスクを着用しない場合であっても引き続き、手洗い、「密」の回避等の基本的な感染対策を継続しましょう。
※その他他者の状況に応じて、講じられている対策がある場合、それを踏まえ対応をお願いします。

